

志卷之十二

大藏權少書記官正七位野中準等修

御料所

〔按〕御料所ハ禁裏仙洞ノ供御及ヒ親王等ノ料物
 ヲ徵スル所モ豊饒ノ地ヲ擇テ之ニ充ツ而シテ
 諸國中他ノ所ニ三ノ倍セリ想フニ倉府以來ノ
 其年貢ハ古ノ所ニ倍セリ武家ノ所領ニ歸シテ
 亂相續キ御ノ料有テス川氏ノ世ニ至リ
 ナ新府ヲ攝テ之ヲ掌有セシメ仙洞ノ院御實
 永中ノ山城ヲ丹波等ノ禁裏洞女御等
 料所ノ高トシテ雖モ檢地ノ竿多ク六寸ヲ用
 地ノ納ハシ多ク雖モ檢地ノ竿多ク六寸ヲ用
 ヒ收納ハシ多ク雖モ檢地ノ竿多ク六寸ヲ用
 知レ行所合高別ニ若千萬石アリテ而シテ新
 至レ行所合高別ニ若千萬石アリテ而シテ新

是條原書年月
詳ナラス然ト
モ申實ヲ以テ
之ヲ推スニ應
ニ是年ニ在ル
ヘキナリ
〔跡〕邪言アト乃
チ舊領地ヲ謂
フ
〔仙洞〕三才圖會
ニ云天子位ヲ
遠レ給フヲ仙
洞ト曰フ

〔後醍醐天皇建武元年〕北條高時ノ領地跡ヲ内裏ノ御料所ト爲ス太平記

〔按〕武家系圖ニ云高時ノ領地二十八萬七千貫ナリト成形圖說田五段ヲ一貫ト爲ス今姑ク之ニ依テ算スレハ乃チ十四萬三千五百町ト爲ス

〔北〕後光嚴天皇應安元年六月十七日〔左馬頭足利義滿

令〕禁裏仙洞ノ御料所ハ他ニ異ナルヲ以テ半濟ヲ禁

シ固ク武士ノ妨ヲ停止スヘシ花營三代記式目新篇追加

〔按〕凡ソ半濟ハ事宜ニ據リ其領地ノ半ヲ付與スルアリ其租額ノ半ヲ收納セシムルアリ神領等多ク此法ヲ用フ御料所ハ禁裏仙洞ノ所

〔後花園天皇寛正二年七月晦日〕阿州十七所御料所ノ

代官出錢ヲ怠ルヲ以テ諭シテ之ヲ納メシム季瓊日錄

〔天正十一年八月二十日〕前田玄以下知親王御料所

ニ夫役諸役等一切有ル可ラス玄以下知狀印

莊園

〔按〕莊園ハ本ト別莊ノ田園ヲ謂フ和訓栞ニ云湯沐ノ田ヲ外家ニ讓リ功田子孫ニ至リ寺ニ施入セシノ類私領ト古以來概テ領家社寺ノ專有ナルモトナリ殆ト國郡ノ膏腴ヲ盡シ深根固蒂復所トナリ殆ト國郡ノ膏腴ヲ盡シ深根固蒂復收ム可ク國ノ疲弊ヲ致スニ至ル朝宣旨ヲ下シ幾テ之ヲ廢セシムルニ至ル能ハス頼朝亦地頭ヲ置キ之ヲ管掌セシムトシテ能ハス頼朝亦地頭ヲ領家トシテ後地頭領家トシテ雖モ之ニ主タル者ヲ失ヒ所領知行ノ基ヲ爲スニ至リ降テ其利ノ所及ヒ莊園徒ニ至ルハ蓋シ於テ其遺稱ナリ氏ノ世尙其莊ノ地アルハ蓋シ於テ其遺稱ナリ

〔僧〕僧職ナリ
即チ僧正僧都
律師法印法眼
法橋ヲ謂フ

〔領家〕御成殿式
目抄ニ云領家
ハ本所ヲ謂フ
公家ナリト乃
チ其地ヲ領有
スル者ヲ謂フ

〔安徳〕天皇養和元年正月四日東大寺興福寺僧綱以下ノ見任ヲ解キ其莊園ヲ收ム百練抄平家物語源平盛衰記

〔後鳥羽〕天皇壽永二年十月十四日宣東海東山ノ諸國神社佛寺王臣家領ノ莊園ハ舊ノ如ク領家ニ從フ可レ百練抄

〔按〕是年七月平氏安徳天皇ヲ奉シテ西國ニ赴ク朝廷因テ平氏畧領セル所ノ莊園ヲ復シテ各其主ニ還付ス是レ源賴朝ノ奏請ニ因ルナリ

〔元曆〕元年二月廿二日諸國司ニ勅シテ公田莊園ノ兵糧米ヲ催スコトヲ停メシム玉海

〔文治〕元年八月十三日宣鎮西ノ莊園領家知行スヘキノ處武士押領制ス可ラス早ク其濫妨ヲ停止シ舊ノ

如ク領家ニ委付セシム可シ東鑑

〔十月十七日〕九州四國ノ國衙莊園ヲ論セス調庸ヲ備ヘシム源平盛衰記

〔按〕是レ源義經ノ奏請スル所是時義經京師ニ在リ給用足ラス乃チ茲ニ及フ然トモ未ク幾ナラズシテ義經亡命ス其實行セサルコト知ルヘシ

〔十一月〕賴朝奏請シテ諸國ニ守護ヲ置キ莊園ノ地頭ヲ補ス帝王編年記源平盛衰記

〔十二月廿一日〕諸國莊園悉ク關東ヲシテ領掌セシム東鑑

三年六月廿一日總追捕使源賴朝令國々ノ守護武士等賴朝ノ下文ヲ帶ヒス恣ニ押領ス尤モ驚ク所ナリ

今ニ於テハ偏ニ其濫行ヲ止メ天下ヲ澄清ス可キナ
リ然ラハ莊園ハ本家領家ノ所役ヲ先例ニ任セ勤仕
ス可シ東鑑

〔同年〕上皇熊野行幸ノ御物等ヲ諸莊園ニ充テ徵ス東鑑

〔王御門〕天皇元久元年二月二十日〔征夷〕大將軍源實朝

令〔諸莊園〕ノ所務等右大將家ノ例ニ任セ沙汰スヘシ

東鑑〔後堀河〕天皇寬喜元年四月七日太政官符淡路國守藤

原宗政去月九日ノ奏狀ヲ得ルニ曰ク謹テ案内ヲ檢

スルニ莊園ノ制格條己ニ存ス中ニ就テ寬德以後ノ

新莊園ヲ停止スヘキノ由綸旨重疊起請輕カラス何

〔國司〕御成敗式
目抄ニ據ルニ
國衙ニ居リ奉
ヲ運ムルノ官
吏ニシテ公家
ノ人之ニ任レ
任期三年ナリ
〔得替〕彼ヲ得テ
此ニ替ルノ我
乃チ領地替ナ

ソ况ヤ本免ノ外或ハ加納ト號シ或ハ出作ト稱シ免
田ニ混合シ官物ヲ遁避スルヲヤ加良郡司平民先祖
ノ領地ヲ以テ權門勢家ニ寄セ往古ノ公驗アリト稱
シ公田ヲ掠取シ好テ莊園ヲ立ツ仍テ代々ノ國司宣
旨ヲ申下シ在任ノ間停廢スト雖モ得替ノ時忽チ以
テ判免ス寔ニ黎民ノ謀計ニ似タリト雖モ豈是レ宰
吏ノ容ル可キ有ルニ非スヤ此ノ如キカ故ニ毎ニ牢
籠ニ任セ追年倍增ス國ノ凋弊職トシテ斯ニ由ル裁
許ヲ蒙ルニ非ンハ何ソ制止ヲ加ヘンヤ望請フ天恩
先例ニ准シ新立莊園竝ニ加納田畠ヲ停止シ乃貢ノ
勤ヲ致サシメン勅ス先例ニ任セ請ニ依レ條事定
文書

〔莊園〕莊園ヲ掌ル者ナリ

〔同日太政官符〕同前ノ奏狀ヲ得ルニ曰ク謹テ案内ヲ
 檢スルニ神社佛寺權門勢家ノ莊園膏腴ノ地ヲ占メ
 國役ヲ勤メス因テ在々ノ調丁好テ莊内ニ入り郷々
 ノ民烟次第ニ減少ス何ソ况ヤ宰吏得替ノ時莊司公
 民ヲ招キ取り或ハ權勢ヲ恣ニシ或ハ神威ヲ假リ敢
 テ還住セシメス皆莊民ト爲スヲヤ茲ニ因テ莊家ハ
 年ヲ追テ興復シ國衙ハ日ニ隨テ衰弊ス之ヲ論スル
 ニ吏途公平ト謂フ可ンヤ望請フ天恩停止シテ特ニ
 課丁ノ勤ヲ爲サシメン勅ス先例ニ任セ請ニ依レ
 書定文

〔同日太政官符〕筑後守中原尹光去月十四日ノ奏狀ヲ

〔濟物〕解中篇ニ見エタリ

得ルニ曰ク謹テ案内ヲ檢スルニ新ニ莊園ヲ立ルハ
 停止スヘキノ狀前後ノ符嚴制連綿タリ何ソ况ヤ寛
 德二年莊園ヲ以テ永ク停止ニ從フ可キノ由屢宣旨
 有ルヲヤ中ニ就テ當國ハ其弊無雙遼遠言フ可ラサ
 ル地ナリ而シテ權門ノ莊園充滿シ應ニ租ヲ輸スヘ
 キ田幾ナラス式數ノ濟物爭カ辨填ス可ンヤ代々ノ
 吏各申請ニ任セ裁許ヲ蒙ルト雖モ或ハ元ノ如ク免
 除シ或ハ得替ノ時倫ニ以テ判ヲ與フ國ノ衰微職ト
 シテ斯ニ由ル望請フ官使ヲ下シ件ノ新立莊園並ニ
 加納田畠ヲ停止シ特ニ興復ノ計ヲ廻ラサン勅ス請
 ニ依レ
 條事定
 文書

同日太政官符出羽國司平知廣去月十三日ノ奏狀ヲ得ルニ曰ク謹テ案内ヲ檢スルニ莊園ノ制格條已ニ存ス中ニ就テ寬德以後新立ノ莊園ヲ停止ス可キノ旨綸旨重疊起請輕カラス申請ノ旨豈公平ニ非スヤ望ラクハ天恩先例ニ准シ新立ノ莊園並ニ加納田畠ヲ停止シ乃貢ノ勤ヲ致サシメン勅ス例ニ任セ請ニ依レ條事定文書

三年九月十二日宣諸國新立ノ莊園ヲ停止ス可シ抄

貞永元年七月鎌倉府式目莊園等ハ本所ノ進止タリ沙汰出來スルトモ關東ノ關係スル所ニ非ス若シ申

ス旨アリトモ聊カ叙用ス可ラス御成敗式目

同年令畿内西國並ニ近國堺相論ノ事莊園ニ於テハ領家ノ沙汰タリ奏聞ヲ經テ聖斷ヲ蒙ル可シ而シテ地頭等自由ニ任セ相論ノ條必ス停止スヘシ御成敗式目加東鑑

四條天皇嘉禎二年十月五日鎌倉府衆徒ノ知行莊園ヲ沒收シテ悉ク地頭ヲ補ス東鑑

龜山天皇文應元年四月十三日太政官符攝津國守中原師藤今月六日ノ奏ヲ得ルニ曰ク謹テ案内ヲ檢スルニ好テ莊園ヲ立ルコト格制已ニ重シ而シテ貪婪ノ徒郡邑ニ相交リ或ハ膏腴ヲ求メ或ハ土民ノ田地

大日本國統志 卷之十一 莊園

ヲ尋テ權勢ニ依テ己ノ莊園ト號シ國宰ニ從ハス直ニ符牒ヲ放チ私使ヲ遣シ暗ニ阡陌ヲ定メ恣ニ以テ券ヲ立ツ郡司等由緒ヲ陳スレハ却テ陵轢ス此ノ如キ輩所部ニ充滿ス國ノ巨害只斯事ニアリ望請フ天恩先例ニ因准シ停止セラレ特ニ國內ヲ肅清セン勅ス先例ニ任セ請ニ依レ國太曆

〔後二條天皇嘉元二年六月廿八日〕興福寺ノ僧徒生駒莊ノ地頭ヲ逐フ餘倉府首事ノ者ヲ流シテ地頭ヲ補ス興福寺畧年代記

〔九月廿五日〕餘倉府興福寺ノ請ヲ以テ生駒莊ノ地頭職ヲ罷ム歷代皇紀

〔北朝〕光明天皇貞和元年十月十四日攝津守藤原隆昌奏國太曆○文應元年四月六日中原師藤奏狀ニ同シ之ヲ畧ス

〔同日〕攝津守藤原隆昌奏ス謹テ案内ヲ檢スルニ當莊ハ本田二千五百二十四町ナリ中古以來神社佛寺領權門勢家ノ莊逐年倍增其外本莊ノ加納ト號シ或ハ客人ノ名田ト稱シテ免田ニ異ナラス仍テ遺ス所ノ公田其數幾ナラス中ニ就テ本免百町ノ莊ニ二三百町ヲ籠領ス况ヤ莊園ノ近邊田堵ヲ相交ヘ莊司ニ遇ヘハ公田ト稱シ國使ニ遇ヘハ莊領ト號シ巧ニ一旦ノ論ヲ成シ遂ニ兩方ノ辨ヲ遁ル此ノ如キノ類繁クシテ徒有リ加之ス本免十町ト雖モ界限ヲ恣ニシテ

〔家内〕家内ニ云
 庶内ニ國田ヲ
 爭テ決セズ往
 テ周ニ質スト
 是ナリ

大田本紀續編 卷之十三 附

數百町ヲ籠領スルニ至ル是レ則チ作人ノ賄賂ナル
 ニ似タリト雖モ只領主ノ捍行ニ依ル望請フ天裁官
 使國使ヲ致シ相共ニ悉ク檢注シ免田ヲ勘除シ且官
 物ヲ定メ公事ヲ充テ行ヒ永ク虞芮ノ跡ヲ絶チ將ニ
 殷商ノ治ヲ期セントス國本

〔後花園〕天皇康正元年十二月山門ノ衆徒莊園ノ事ヲ
 嗷訴シテ已マス日吉神輿ヲ捧シ洛ニ入ル管領細川
 勝元ヲシテ之ヲ禦カシメ教書ヲ賜テ歸山セシム京都
 將軍
 家譜

國領

〔按〕國領ハ國司ノ領スル所ナリ國司ノ應ヲ國領
 ト曰フ因テ亦國領ヲ稱シテ國領ト曰フ御成敗
 式目抄諸書ニ據ルニ國司ハ任限有リ和訓葉ニ
 云國司ハ則チ職掌目ニ涉テ之ヲ言フト知ルヘシ
 當初ハ則チ職掌目ニ涉テ之ヲ言フト知ルヘシ
 スルニ至ルコト而シテ其ノ久キ迷ニ之ヲ私有
 畧莊園ニ類シ租入ヲ專收ス故ニ當時莊園國領
 ト連稱ス而シテ較ヤ莊園ノ盛ナルニ及ハス之
 ヲ要スルニ國領ハ猶國領有リ以テ國司ノ遺意
 ヲ存ス東鑑ニ云諸國ニ守護ヲ置クト所謂諸國
 ハ國司ノ領スル所而シテ守護ヲ置クト專横ヲ逞
 フシ遂ニ全ク其領有スル所ト爲ルモノ多シ

〔後鳥羽〕天皇文治元年八月十三日院廳下文謀叛ノ輩
 追討ノ後諸國諸莊ハ舊國司領家ニ任セ知行セシム
 可シ然ルニ太宰府管内武士押領制ス可ラサルノ聞
 アリ早ク其濫行ヲ停止シ國衙ハ舊ノ如ク國司ニ委
 付セシム可シ東鑑

大田本紀續編 卷之十三 附 八 大藏省

〔十月十七日〕九州四國ノ國衙ヲシテ調庸ヲ備ヘシム
源平盛衰記○事駐
關係中ニ具レリ

〔三年六月廿一日〕總追捕使源賴朝令諸國ノ武士自由
ニ任セ所在押領スルコト尤モ驚ク所ナリ今ニ於テ
ハ其濫行ヲ止メ天下ヲ澄清ス可キナリ然ラハ國衙
ハ先例ニ任セ國役雜事ヲ勤仕スヘシ東鑑

〔四年九月三日〕令若狹國松永並ニ官川保地頭事ヲ所
職ニ寄セ國ヲ押妨スルノ事院ヨリ仰セ下サル早ク
地頭ニ付スル事ノ外國衙ノ課役ニ於テハ非法ノ妨
ヲ停止シ先例ニ任セ其勸ヲ致ス可シ東鑑

〔後堀河天皇貞永元年七月〕鎌倉府式目國衙ハ本所ノ

進止タレハ關東ノ干涉スル所ニアラス若シ申ス所
ノ旨アリト雖モ聊カ叙用ス可ラス御成敗式目

〔成敗〕諸處分ト
言フカコトシ

〔閏九月朔月〕令畿内近國西國堺論國領タラハ國司ノ
成敗タル可シ東鑑御成敗式目追加

〔順德天皇建曆二年三月廿二日〕宣諸國ノ吏恣ニ國領
公田ヲ以テ神社佛寺ニ寄進シ永代免許ノ字ヲ載ス
新司之ヲ停メント欲レハ即チ本所頻ニ愁緒ヲ結フ
ノ源トナリ之ヲ充テント欲レハ後代定テ立雖ノ地
ヲ殘サ、ラン吏途ノ法循良術ヲ失フ聖斷ノ煩アル
職トシテ斯ニ由ル自今以後勅免ヲ帶ヒサルノ地ハ
永ク其寄進ヲ停止スヘシ玉藥

大日本租稅志卷之十二終

〔後醍醐天皇嘉曆元年〕勅シテ安藝國衙ヲ東寺ニ寄附
シ以テ諸堂修理ノ費ニ給ス東寶記

〔後花園天皇永享十一年六月二十日〕美作國衙ノ檢島
巡年ナルヲ以テ先例ニ任セ國衙廳ニ進濟セシム内建記

大日本租稅志卷之十二終

大日本租稅志卷之十三

大藏權少書記官正七位野中準等修

領地 上

〔按〕所領ト曰ヒ知行ト曰フ同ク是レ領地ナリ蓋
シ領トハ其地ヲ管領スルナリ知行トハ其地ノ
事務ヲ知リ行者多シ爾後其地ヲ繼領セシム
事ヲ授ク者之ニ率由ス而シテ其額租條
領執政ノ時畧之ニ率由ス而シテ其額租條
氏等得テ徵ス可ラス何世ニ至ルニ及テ其
入多寡ヲ算スルニ何世ニ至ルニ及テ其
ノ多寡ヲ算スルニ何世ニ至ルニ及テ其
録ニ云ハク坪ハ一貫ニ當リ田一畝ニ凡
ラレ田千坪ハ一貫ニ當リ田一畝ニ凡
貫ノ地ハ近世ノ如シハ地ノ肥瘠便否ニ依
說ノ地ハ近世ノ如シハ地ノ肥瘠便否ニ依
ア固ヨリ理ノ然ルヘキモ段ノナリテ然
ヲ算スルニ至テハ必ス町段ヲ以テ是レ軍

大日本租稅志 卷之十三 大藏權少書記官正七位野中準等修

大日本國志卷之十三
後鳥羽天皇
治承四年十一月八日源賴朝秀義ノ領所常陸國奧

役賦課ノ便ニ出ルコト知ルヘシテ其家永
續斷絶一ナラス今其領所漸ク封建ノ基礎ヲ成ス足利氏
ニ至テ國ニ跨リ郡ヲ兼テ全ク封健ノ形狀ヲ成
シ領地姓名等略其因襲スル所ヲ知ル且町敷收
租入守護職料等概觀スル所未ク服セ時各家
ノ與亡倭忽ノ間ニ在リ且東西未ク服セ時各家
ノ時海内大ニ服シ各家ノ封土全ク定ル延テ
川氏ニ至リ規模概テ前代ニ準據ス然トモ各家
ノ與亡猶定ラズ享保中百事大ニ定リ各家復
大ナル變革無シ今寛文印知集ニ載スル所ヲ採
テ所領一萬石以上ノ提領ヲ舉ク然ルニ絳田氏
領地ノ提領ハ時亂ニ屬セシヲ以テ得テ徵ス
可ラズ豊臣氏ノ石高ヲ貳百萬石餘トモ皆其
川氏ノ石高ヲ大凡八百萬石トス然トモ皆其
地諸國ニ散在シ且家人麾下等ニ分與シ收
付増減一定ナラサルヲ以テ之ヲ省略ス

是二條年曆ヲ
以テ之ヲ訂ヘ
ハ當ニ前編第
一内ニ在ル可

レ然トモ其領
地ノ部無キヲ
以テ此ニ掲載
ス

賞ニ充ツ東鑑

〔同年〕賴朝東國家人ノ本領ヲ安堵シ一時同ク下文

ヲ賜フ東鑑

〔後鳥羽〕天皇文治元年九月十八日東國領等ハ領家ノ

進止ニ隨フ可キノ旨御教書ヲ賴朝ニ遣ハサル海玉

〔三年〕賴朝知行ノ國々ハ相摸武藏伊豆駿河上總下總

信濃越後豐後等ナリ東鑑

〔諸家領地〕

參河 連枝 參河守範賴

大日本國志卷之十三 大日本國志

大日本種姓志 卷之十三 二 大藏省

伊豫 伊豫守義經

尾張ノ内 同 阿野法橋全成

上野ノ内 門葉 新田大炊助義重

上野ノ内 同 山名伊豆守義範

伊賀ノ内 同 里見伊賀守義成

上野ノ内 同 額田五郎經義

上野ノ内 同 新田冠者義光

上野ノ内 同 新田小四郎義佐

下野ノ内 同 足利上總介義兼

武藏ノ内 畠山遠江守義純

參河ノ内 仁木太郎實國

大日本種姓志 卷之十三 三 大藏省

參河ノ内

細川二郎義季

武藏ノ内

荒川三郎義宗

甲斐ノ内

門業
逸見上總介光長

駿河

同
武田太郎信義

甲斐ノ内

一條二郎忠頼

甲斐ノ内

板垣三郎兼信

甲斐ノ内

武田右兵衛尉有義

甲斐安藝

武田大膳大夫信光

信濃ノ内

加賀美信濃守遠光

甲斐ノ内

秋山太郎光朝

信濃ノ内

小笠原左京大夫長清

阿波ノ内

信濃ノ内 南部信濃三郎光行

遠江ノ内 安田遠江守義定

甲斐ノ内 安井四郎清隆

對馬 河内五郎長義

甲斐ノ内 曾根禪師殿尊

甲斐ノ内 奈古藏人義行

甲斐ノ内 淺利與一義遠

常陸 門葉 佐竹別當秀義

近江ノ内 同 山本若狹守義經

武藏ノ内 同 平賀武藏守義信

武藏ノ内 同 平賀右衛門尉朝政

信濃ノ内
美濃伊賀

大内相摸守惟義

河内ノ内

門葉
石川判官代義資

相摸ノ内

同
毛利藏人頼隆

駿河ノ内

同
太田駿河守廣綱

尾張ノ内

同
大河内源太顯綱

越後ノ内

同
小國丹後守頼行

上野ノ内

同
深栖陵助光重

攝津ノ内

同
豊島藏人高頼

尾張ノ内

同
山田大和守重弘

信濃ノ内

同流
片桐太郎爲安

信濃ノ内 二柳三郎大夫國忠

大和ノ内 同 成田二郎光治

大和ノ内 同 土方太郎季治

大和ノ内 同 大森三郎茂治

信濃ノ内 同 村上左衛門尉賴時

信濃ノ内 同 村上與三判官仲清

信濃ノ内 同 井上太郎忠長

信濃ノ内 同 高梨判官賴高

信濃ノ内 同 仁科二郎盛朝

伊豆ノ内 外戚 北條遠江守時政

相模ノ内 同 北條陸奥守義時

大日本種系志 卷之十三 北 林藏

伊豆ノ内
相模ノ内

同

北條武藏守泰時

遠江ノ内

名越遠江守朝時

相模ノ内

赤橋相模守重時

相模ノ内

新相模左京大夫政村

武藏ノ内

北條陸奥六郎實泰

駿河ノ内

北條駿河守有時

武藏ノ内

北條武藏守時房

相模ノ内

三浦介義澄

相模ノ内

三浦駿河守義村

相模ノ内

津久井二郎高行

相模ノ内

石田二郎為久

相摸ノ内

岡崎四郎義實

相摸ノ内

上總ノ内

和田左衛門尉義盛

武藏ノ内

和田小二郎義茂

相摸ノ内

和田三郎宗實

相摸ノ内

和田四郎義胤

相摸ノ内

荏柄平太胤長

相摸ノ内

大多和三郎義久

相摸ノ内

多々良四郎義春

和泉ノ内

紀伊ノ内

佐原左衛門尉義連

下總ノ内

千葉介常胤

下總ノ内

千葉新介胤正

下總ノ内

東六郎大夫胤頼

下總ノ内

塚平太定常

上總ノ内

上總介廣常

下野ノ内

小山左衛門尉朝政

下野ノ内

長沼淡路守宗政

下總ノ内

結城上野介朝光

下野ノ内

網戸十郎朝村

下野ノ内

下河邊庄司行平

下野ノ内

佐野太郎基綱

上野ノ内

園田太郎成澄

上野ノ内

大胡 太郎 重俊

上野ノ内

佐貫 右衛門 尉 廣綱

武藏ノ内

大河 戸 太郎 廣行

下野ノ内

關 左衛門 尉 政泰

近江ノ内

佐々木 源三 秀義

近江ノ内
隱岐長門石見

佐々木 左衛門 尉 定綱

近江ノ内

佐々木 近江守 信綱

近江ノ内
淡路阿波土佐

佐々木 兵部丞 經高

備前ノ内

佐々木 右兵衛 尉 盛綱

出雲

佐々木 左衛門 尉 高綱

隱岐

佐々木隱岐守義清

武藏ノ内

秩父莊司重忠

武藏ノ内

稻毛三郎重成

武藏ノ内

榛谷四郎重朝

武藏ノ内

川越太郎重頼

武藏ノ内	江戸右兵衛尉重長
武藏ノ内	葛西壹岐守清重
相摸ノ内	澁谷莊司重國
相摸ノ内	土肥二郎實平
相摸ノ内	土屋三郎宗遠
相摸ノ内	梶原平三景時

大日本維新史 卷之三十三 大坂 三十三

相摸ノ内

大庭平太景義

相摸ノ内

長尾新六定景

日向大隅
薩摩

島津豊後守忠久

豊前
豊後ノ内

大友左近將監能直

伊豆久津美庄

工藤左衛門尉祐經

因幡安藝
肥後山本庄

毛利大膳大夫廣元

下野
伊賀壬生郷

宇都宮左衛門尉朝綱

常陸ノ内

八田右衛門尉知家

出羽

中條出羽守家長

水田本組記 卷之十三 水田本組

伊勢ノ内

山内瀧口三郎經俊

相模ノ内

鎌田新藤二俊長

信濃ノ内

尾藤太知宣

伊勢ノ内

加藤五郎景員

伊勢ノ内

後藤右兵衛尉實基

讃岐

近藤七國平

筑後

武藤筑後守資頼

常陸ノ内

田村伊賀守仲教

駿河ノ内

原三郎清益

駿河ノ内

吉河小二郎友兼

橋磨福井庄

安藝大庄

水田本組記

卷之十三

水田本組

水田本組

駿河ノ内

岡部權守泰綱

信濃ノ内

二階堂山城守行政

相摸ノ内

波多野二郎大夫義通

相摸松田庄

松田二郎有常

相摸ノ内

波多野中務丞忠綱

相摸ノ内

河村四郎秀清

加賀ノ内

富樫介家直

加賀ノ内

林二郎家嗣

伊賀ノ内

伊賀右衛門尉光季

參河ノ内

安達藤九郎盛長

武藏ノ内

熊谷二郎直實

大日本相模志 卷之十一 相模郡 十一

相模ノ内

新開荒二郎忠氏

相模ノ内

二宮七郎朝忠

武藏ノ内

本庄太郎家長

紀伊ノ内

富田三郎近家

武藏ノ内

安保刑部丞實平

信濃ノ内

飯田太郎家義

相模ノ内

香川五郎經高

伊豆ノ内

宇佐美左衛門尉祐茂

駿河ノ内

工藤莊司景光

伊豆ノ内

狩野介茂光

伊豫ノ内

河野四郎通信

大日本相模志 卷之十一 相模郡 十一 大藏省

武藏ノ内

野木左衛門尉基員

遠江ノ内

相良三郎長頼

三河ノ内

高橋左近將監頼之

筑前ノ内

原田六郎大夫種直

陸奥ノ内

小鹿島薩摩守公業

武藏ノ内

横山右馬助時兼

肥後ノ内

菊池九郎隆直

信濃ノ内

海野左衛門尉幸氏

豊後ノ内

緒形三郎惟榮

伊豆ノ内

天野民部丞遠景

武藏ノ内

成田五郎助忠

但馬ノ内

朝來太郎大夫高清
鎌倉武鑑

〔按〕是レ鎌倉武鑑ニ據テ治承四年ヨリ承久ノ末年マテニ係レルモノヲ掲録スルナリ而シテ所領ノ廣狹町段ノ數ノ如キハ武鑑ニ載セサルヲ以テ姑ク之ヲ開如ス共所領數所ニ涉ルモノハ問マ守護職地頭職ヲ以テ領スル所有ルナリ且當時土地ヲ領スルモノ諸書ニ散見スルアリト雖モ今一ニ武鑑ニ據テ復々之ヲ補ハス

〔王御門天皇建永元年正月廿七日〕征夷大將軍源實朝令故將軍ノ時拜領ノ地ハ大罪ヲ犯サ、ル者ハ之ヲ召放ツ可ラス東鑑

〔後堀河天皇寛喜三年六月六日〕鎌倉府令領家地頭中

分ノ事新補地頭ニ於テハ折中シ本補ニ限り許容セサルノ條舊日ノ沙汰然ル可ラス向後ハ事體ニ隨テ中分ス可シ式目新篇追加

〔按〕中分トハ其地ヲ折半シテ領家地頭ニ分付スルナリ但其事新法ニ屬スルヲ以テ發令前後ヲ分テ新舊地頭ヲ異ニセント欲ス已ニシテ之ヲ修正スルナリ

〔貞永元年七月〕式目下文ヲ帶フト雖モ知行セスシテ年序ヲ經ル所領ハ當ニ知行スヘキノ後二十年ヲ過クル者ハ方大將家ノ例ニ任セ理非ヲ論セス改替セス而ルニ知行ノ旨ヲ申シ下文ヲ掠メ得ル輩ハ其狀ヲ帶フト雖モ叙用ニ及ハス御成敗式目

〔同年〕令藝能ニ依テ奉仕スル者所領ヲ他人ニ讓付シ

〔非器〕才器ナキ
人ヲ器ノ

或ハ非器ノ輩相傳フルノ條其謂レナシ仍テ器量アル者ニ付シ相傳ヘシム可シ御成敗式目追加

〔四條天皇嘉禎三年八月五日〕令貞應嘉祿以後盜賊略奪セシ所領ハ縱ヒ其身ヲ擲取スト雖モ所領ハ沒收

ニ及ハス早ク本所ニ返付スヘシ御成敗式目追加

〔十七日〕令或ハ謀書ヲ構ヘテ押領セラレ或ハ知行ノ下文ヲ掠メ得ルモノ有ルノ旨苦訴ノ輩有リト雖モ

自今以後知行廿年ヲ過クル者ハ式目ノ趣ヲ守リ理

非ヲ願ミス知行ノ年紀ニ就テ成敗ス可シ御成敗式目追加

〔按〕條ニ押領シテ下文ヲ掠メ得ル者ハ縱ヒ知行二十年ヲ過クト雖モ叙用セサルナリ今年紀ニ就テ之ヲ成敗ストハ蓋シ亦二十年ヲ過クル者ハ同ク之ヲ改替セサルナリ而シテ寶治元年ノ

條又之ヲ禁止ス當時武臣

横恣ノ狀以テ觀ルヘシ

〔曆仁元年九月九日〕令

御成敗式目追加○前條ニ同シ之ヲ畧ス

〔仁治二年十一月十七日〕令身老耄ニ及ヒ或ハ病患ニ

依リ所領所職ヲ以テ子孫ニ讓與シ遁世スルハ普通

ノ法ナリ而ルニ未タ老年ニ及ハス又病惱無ク免許

ヲ得スシテ出家シ猶所領ヲ知行スル事甚々自由ノ

所行ナリ自今以後此ノ如キノ輩ハ不忠ノ科ニ處シ

所領ヲ沒收ス可シ御成敗式目追加

〔後深草天皇寶治元年十二月十二日〕令諸國押領ノ地

縱ヒ二十年ヲ過クト雖モ年紀ニ依ル可ラス本地頭

ハ先例ニ任セ新地頭ハ率法ヲ守リ沙汰ヲ致スヘシ

東 繼

〔正嘉三年二月十日〕令山野河海領家國司ト地頭ト折中ノ法ヲ以テ各半分ノ知行ヲ致スヘシ式目新 籍追加

〔龜山天皇文永四年十二月廿六日〕令離別ノ妻妾他ニ

嫁シ猶前夫讓ル所ノ所領ヲ知行スルコト不義タリ

自今以後他夫ニ嫁スルニ於テハ早ク其所領ヲ沒收

スヘシ但寡居シテ貞節アル者ハ制ノ限ニアラス御成

敗式目 追加

〔十一年六月朔日〕令一期知行ノ輩罪科ニ依テ所領沒

收ノ時後來ノ領主誤リ無キニ永ク佗僚スルコト不

便タリ若シ繼母兄弟他人等後領主タルヘクハ之ヲ

〔佗僚〕餘屬ノ注ニ云志ヲ失フ貌

給スヘシ子孫後領主タルヘクハ公ニ收ムヘシ御成 敗式

目 追 加

〔按〕罪ヲ後人ニ加フルコト疎ニ寛ニシテ親ニ嚴ナルナリ

〔後宇多天皇弘安七年十月廿二日〕令總領主罪科アル

ノ時別人ヲ以テ改補スルノ處庶子等下文ヲ得スト

稱ス知行ノ實否ヲ尋決スルコト無シ頃年總領ニ付

スルコト甚々不便タリ各別領知證據分明ナラハ縱

ヒ安堵ノ下文ヲ帶ヒスト雖モ本引付ニ於テ沙汰シ

テ之ヲ返付スヘシ式目新 籍追加

〔伏見天皇正應三年九月十九日〕令新式日〇寛喜三年 六月六日ノ令ニ同

シ之ヲ 畧ス

〔本引付〕和調茶ニ云庭訓往來ニ御引付沙汰ト見ユ先例ヲ記シ置キ其事ヲ引合セテ沙汰スルモノヲ謂フ

〔後〕諸國行ト
目フカコトレ

〔京都領〕蓋レ御
料所及ヒ公卿
等ノ所領ヲ謂
フ

〔永仁二年〕令家人ノ寡婦亡夫ノ讓ニ任セ安堵ノ下文
ヲ給フハ平均ノ例ナリ改嫁スルニ於テハ他人ニ給
與スヘキノ旨定メシヨリ以來之ヲ避ケンカ爲メ少
年或ハ無病ノ者事ヲ所勞ニ寄セ子息親類ニ讓與シ
安堵ノ下文ヲ請ヒ得ルノ後改嫁ス甚々以テ濫吹ナ
リ自今以後ハ重病危急ニ臨マサレハ其讓ヲ免許ス
可ラス式目新
篇追加

〔後伏見天皇正安二年七月五日〕令關東領京都領ノ經
界ハ聖斷タル可キノ條式目ノ文ニ違フ可ラス新式
目
〔花園天皇文保二年三月〕前右大臣藤原實泰ヲシテ丹
波國ヲ知行セシメ權中納言藤原定房ヲシテ出羽國

ヲ知行セシム繼座
記

〔後醍醐天皇元弘三年五月三日〕勅武士繼素ヲ論セス
忠戰ヲ致スノ輩ハ本領安堵ノ外更ニ不次ノ賞ヲ行
ヒ其功大ナル者ハ永代相傳ヘシムヘシ又戰場ニ命
ヲ墜ス者ハ子孫妻妾及ヒ親族郎從中ニ選ミ所領ヲ
充テ賜ヒ其跡ヲ繼カシムヘシ又凡ソ一官一職ヲ帶
ルノ輩歸順スル者ハ本領知ノ外別ノ恩賞ヲ行フヘ
シ若シ身至ルコト能ハス或ハ兵糧ヲ出シテ軍用ヲ
助ケ或ハ使ヲ進テ忠言ヲ獻シ事ニ觸テ官兵ノ爲ニ
スル者ハ亦同フスヘシ光明寺
殘篇

〔七月廿六日〕勅兵革ノ後士卒民庶未タ安堵セス諸國

ノ輩遠近ヲ論セス悉ク上京ス徒ニ農業ヲ妨クルコト撫民ノ術ニ背ク自今以後此法ヲ閣ス高時黨類以下朝敵與同輩ノ外當時知行ノ地依違アル可ラス宜ク五畿七道諸國ニ仰セテ敢テ違失スル勿レ臨時之ヲ勅斷スルニ於テハ此限ニアラス在國宜ク承知ス可シ集古文書

〔北〕朝 崇光 天皇 觀應 二年 二月 十三日 征夷 大將軍 足利 尊氏 令 竹田 秀之ヲシテ山城國上久世ノ公文職ヲ領知セシムルコト是レ勳功ノ賞ノ爲メ給與スル所ナリ早ク先例ヲ守リ沙汰ヲ致ス可シ東寺百合古文書

〔北〕朝 後光 嚴 天皇 文和 四年 八月 廿二日 〔令〕半濟地ノ事免

許ヲ得ス守護人自由ノ中分ニ及ヒ或ハ半濟ヲ給與セシニ給主等過分ノ知行ヲ致スコト非分ノ亂妨タリ仍テ急速其地ヲ返付スヘシ建武式目追加式目新篇追加

〔北〕朝 延文 二年 九月 十日 〔令〕向後補任ノ事永領分ト云ヒ一旦ノ知行ト云ヒ須ラク之ヲ停止スヘシ若シ地ヲ掠メ得ルノ輩アラハ替地ヲ充テスシテ本所ニ返付ス可シ建武式目追加

〔北〕朝 貞治 六年 十二月 細川 賴之 領地 訴論ノ事ヲ沙汰シ尊氏 直義 詮判形ノ證文アル者ハ本主ニ付與シ高師 直等 私出スル所ノ狀ノ如キハ則チ之ヲ沒收ス京都將軍家譜

〔北〕應安元年六月十七日〔足利義滿〕令知行地ノ安堵已
 ニ一同ノ法ヲ以テ宣旨ヲ下サル、ノ上ハ重テ沙汰
 ニ及ハス但諸人ノ妨ニ依テ愁申スル輩ハ其知行ヲ
 尋究シ申ス所相違ナケレハ安堵ヲ賜フ可シ若シ段
 歩ト雖モ知行セサルノ地ヲ以テ事ヲ安堵ニ密セ掠
 領スル者ハ本領ヲ沒取スヘシ所帶ナケレハ其身ヲ
 斷罪ス可シ罪科ニ非サル者ノ知行地ヲ他人ニ給與
 スル事默止シ難シ恩賞地タリト雖モ之ヲ返付ス可
 シ花營三代記 建武式目追加
 〔同日〕令月卿雲客知行ノ地頭職武恩トシテ補任スレ
 ハ所領ニ混シ難シ半濟ヲ停止ス可シ花營三代記 建武式目追加

〔後〕小松天皇應永十四年六月九日〔足利義持〕令河内國
 觀心寺七郷ノ地頭領家兩職半分ノ事御教書ノ旨ニ
 據リ當寺雜掌ニ沙汰シ付ス可シ觀心寺文書
 〔後〕花園天皇嘉吉元年〔足利義勝〕令永領地ハ改動ス可
 ラス建武式目追加

〔應仁〕中諸家領地

山城乙訓為野愛宕紀伊
 宇治久世相樂綴喜八郡

田八千九百六十一町

獲稻四百四十八萬五百束

米廿二万四千廿五石
今量廿一万七千八十

石二斗二升五合

下野足利庄

田千五百町

穫稻七十五萬束

米三萬七千五百石今量三萬六千三百三十七石五斗〇半ヲ録

倉ニ收ム

攝津多田庄河内茨田庄丹波山國庄

田五千三百三十七町

穫稻二百六十六萬八千五百束

米十三萬三千四百百廿五石今量十四

二万九千二百八十八石八斗二升五合〇半ヲ政所ニ收ム

合田一萬五千七百

京都

將軍足利家

九十八町

穫稻七百八十九萬九千束

米三十九萬四千九百五十石今量三十八萬

二千七百六石五斗五升

〔按原書獲稻ノ總數ヲ六百十八萬九千七百五

束トス是レ鎌倉ト政所トニ收ムルモノヲ除算

スルナリ今田ノ總數ト之ニ應スル穫稻トヲ

ク而シテ原書ニ據ルニ穫稻何東ト記スルハ太

平記東寺文書尾古記等ニ散見スル檢地目録

ニ依リ米何石ハ長保延久ノ官升ニシテ方五

深二寸五分今量ノ九合六勺九撮七七ヲ容ル

云フ而ルニ本文ハ其七々ヲ去テ之ヲ算セリ

三河 八郡

一族衆

合田七千五十四町 西三條 吉良左兵衛佐義貞

内千七百七十町一色家之ヲ領ス

穫稻三百五十二萬七千束

此直錢二十一萬千六百二十貫文此米今量

十七万八千八百八十石一斗五升

米六万七千七百六石四斗五升餘

四千二百六十六石

六俵 吉良家領

米八千五百四十四石一斗五升餘 四斗八二万千

三河守護職料 內千四百一十七石一斗六升二

〔按〕足利氏海内ノ政權ヲ掌握シ土地ヲ割テ有功ノ將士ニ頒テ與フ原書ニ據ルニ田一段ノ種稻五十束内ニ束半ヲ守護職料ニ納メ殘稻四十七束半ヲ折半シテ一分ハ領家ニ納メ一分ハ農民ノ所得トス田地種租法及ヒ守護職料等原書ニ據テ其一ヲ錄ス餘皆之ニ倣ヘ而シテ其租有リ中篇ニ具レリ

川三河橋豆郡土佐窪

合田五千百町

東三條河

吉良左京大夫義勝

筑前博多

渡川左近大夫將監義俊

若狹三方莊因幡鳥取
保但馬高柳保三原保

合田千二百四十町

但馬火知

石橋右衛門佐治義

伊勢奄美河曲鈴鹿
三重朝明五郡

合田六千六百九十

伊勢龜山

仁木右馬權頭教將

七町

丹波五郡

合田八千七百四十

丹波福住

仁木兵部大輔成長

一町

駿河 七郡

合田九千七百九十

駿河府中

今川治部大輔義忠

七町

遠江濱名敷智 豐田周智四郡

合田六千三百十八

遠江引馬

今川左京大夫貞相

町

尾張 七郡

合田一萬八百十六

尾張清洲

斯波右兵衛督義敏

町

執事

讚岐三郡阿波五郡播 津十一郡丹波五郡

合田二萬四千四百

丹波龜山

細川右京大夫勝元

六十五町七段

河内十四郡 紀伊七郡

合田一萬六千八百

河内高屋

畠山右衛門佐義就

一町

但馬 八郡

合田八千十六町

但馬出石

山名右衛門督持豐

相伴衆

阿波麻殖名東名西板東板西海部六郡

合田二千五百四町

阿波勝浦

細川讚岐守成之

參河一色保伊勢一色庄若狹今富庄

合田四千二百七十

丹後宮津

一色左京大夫義直

町

能登四郡

合田八千四百七十

能登七尾

畠山左衛門佐義統

九町

近江犬上坂田淺井伊香高島愛知六郡

合田一萬六千七百

近江大平

佐々木大膳大夫持清

廿五町

近江神崎蒲生甲賀野洲栗本五郡

合田一萬六千八百

近江幡山

佐々木六角大膳大夫高賴

七十二町

越前十郡

合田二萬三千五百

越前國持衆

斯波修理大夫持種

七十六町

備中
十郡

合田一萬八百八十

備中
井山

細川民部少輔持久

三町

備後
十郡

合田九千二百九十

備後
府中

山名彈正少弼教豐

八町

伯耆
六郡

合田八千八百四十	伯耆 松崎	山名相模守教之
二町		
和泉 半國		
合田二千二百八十	和泉 堺	細川刑部少輔教春
四町五段		
美作 十郡		
合田一萬千六百十	美作 高田	山名兵部少輔政清
六町		

因幡
八郡

合田八千十六町

因幡
鳥取

山名左衛門佐勝豐

美濃廿

一郡

合田一萬五千三百

美濃
革手

土岐美濃守成賴

四町

安藝
八郡

合田七千八百卅四

安藝
銀山

武田大膳大夫信賢

町

加賀
四郡

合田一萬二千七百

加賀
富樫

富樫加賀權介成春

六十六町

讚岐山田香東香西那
河阿野三野多度七郡

讚岐
瀨國持衆

合田四千町

讚岐
一宮

細川中務少輔成經

出雲
十郡

合田九千九百六十

出雲
富田

京極加賀守高數

八町

紀伊三河遠江
美原引佐二郡

外様衆

合田三千五百五十

紀伊
岡山

畠山左馬頭成純

町

播磨佐用庄
美作吉野郡

合田五千町

播磨
赤松

赤松新藏人元久

長門六郡周防六郡
石見六郡豐前八郡

合田二萬五千四百

長門
內山

大内修理大夫持世

三十五町

備前建部庄
近江鞍智保

合田三千三百三町

備前
建部

佐々木鞍知紀伊守高持

豊後
八郡

合田七千五百四十

豊後
白杵

大友中務大輔持直

町

美濃明智庄
尾張北方保

合田三千二百三十

美濃
明智

土岐民部大輔賴秋

五町

山城高野郡葉室郷乙訓郡小鹽保
攝津河邊郡大井保島上郡芥川庄

合田千六百七町
攝津 大井 攝津掃部頭之親

攝津麻耶庄美作英
多郡備中小田郡

合田千八百六十町
攝津 唐櫃 赤松治部少輔持彦

攝津有馬
庄武庫郡

合田二千百三十二
攝津 三田 赤松有馬上總介元家

町

阿波忌部庄讚岐小豆島
和泉岸輪田攝津中島 供衆

合田二千四百五十
阿波 城山 細川右馬頭持賢

町

土佐
七郡

合田六千四百五十
土佐 橋多 細川民部少輔持益

六町

丹波多紀郡
土佐播多郡

合田千九百三十四
丹波 曾我部 細川下野入道常忻

町

淡路 二郡

合田二千百卅七町

淡路 岩屋

細川淡路守成春

紀伊海部郡藤代庄
河内佐太保五條保

紀伊 藤代

島山中務少輔政光

石見那賀郡三隅庄但馬福岡庄丹
後御坂保山城上野村三河上野保

合田五百十七町

上野民部大輔持賴

伊豫新居郡字摩郡大和高市郡近
江野洲郡若狹笠原保丹波細谷郷

合田四百六十町三

大館兵庫頭教氏

段

播磨廣岡庄因幡若櫻保
用ヶ瀬保但馬和田山村

合田八百九十九町

播磨 廣岡

赤松刑部少輔教貞

五段

丹波小川庄若狹小黒飯保攝
津貼川保近江古賀保香羽保

合田千五十町

伊勢伊勢守貞親

〔按〕一族八家執事三家相伴衆六家國持衆十家准
國持衆二家外様衆九家供衆九家合セテ四十七
家皆豪族ニシテ大祿ヲ受ク爾德川氏ノ萬石以
上ノ家ノコトシテ皆京都將軍ニ直隸ス原書ニ據
ルニ澁川義俊ハ九州ノ探題職ニシテ九州九十九
四郡田十萬六千九百五十三町ノ所役米今量ノ十

十二萬九千五百四十六石餘ヲ收ムヘシテ而シテ
 肥後日向大隅薩摩服從セサルヲ以テ若干ヲ減
 少スト云フ然トモ其領地幾何ナルコトヲ知ラ
 ス山名持置ノ領地本文ノ如シト雖モ別一播磨
 國ノ守護職料トシテ領スル所同國十四郡ノ田
 一萬四百四十四町米一萬二千六百十三石九斗五
 升七合五勺ト云ヘリ是ニ由テ之ヲ觀レハ守護
 職料亦土地ヲ領シテ其所得ヲ收ムルモノ有ル
 コト知ル
 ヘキナリ
 相摸足柄上足柄下愛甲高座鎌倉三浦大
 住陶綾筑井九郡伊豆田方郡北條保武藏
 多東郡府中保
 下野足利庄
 合田一萬四千八百
 相摸
 鎌倉
 足利左馬權頭成氏
 九十三町
 〔按〕鎌倉ハ足利基氏持氏成氏曾之ニ居リ相摸伊
 豆以東十二國及ヒ佐渡國ヲ管轄ス後陸奥出羽
 二國ヲ加フ之ヲ
 鎌倉分國ト謂フ

伊豆名古屋庄上
 野四郡越後七郡
 執事
 上野
 上杉民部大輔顯定
 合田二萬七千二百
 上野
 平井
 上杉民部大輔顯定
 卅九町五段

越後七郡近江曹馬
 莊駿河富士郡下方
 上越
 上杉上條相摸守房定
 合田三千町

相摸大住郡粕屋庄
 武藏七郡小机庄
 河越
 上杉修理大夫政真
 合田六千五百餘町

武藏葛飾
 郡八條領

大日本... 卷之十三

凡田七百町

武藏八條

上杉八條中務大輔滿定

相摸託間庄

相摸託間

上杉宅間讚岐守憲時

伊豆土肥庄

相摸愛甲郡當麻庄武藏多摩郡小山田保

武藏小山田

上杉小山田三郎定賴

合田四百六十七町

二段

陸奥斯波磐手二郡下總香取郡

陸奥大崎

斯波大崎左京大夫政兼

合田二千六百九十

三町

出羽最上村山二郡

出羽山形

最上左衛門佐義淳

凡田六千六百六十

六町六段

陸奥安達郡安積郡ノ内

陸奥二本松

二本松修理大夫持泰

合田千二百十三町

武藏足立埼玉二郡陸奥奥州桑郡

武藏西崎

上杉固麿鼻和左馬助房憲

合田二千六百三十

大日本... 卷之十三

大田本相説志 卷之廿三 三十五 伏蔵省

町

下總市川庄武藏葛西石濱

侍所別當

千葉介實胤

合田三千二百七十

餘町

下總千葉印幡埴生等郡上總武射市原二郡

下總馬加

千葉馬加陸奥守孝胤

合田四千三百五十

餘町

〔按〕千葉氏ハ關東ノ舊族ナリ足利氏ニ至リ侍所別當ニ補セラレ世此職ヲ掌ル享徳四年ノ亂ヨリ兩派トナリ采邑ヲ分領ス

下野安蘇都賀塞川芳賀四郡ノ内

關東八大將

下野小山 下野守成長

合田三千町

下總結城猿島豐田三郡

下總結城 結城左衛門佐氏廣

合田六千町

陸奥白川菊多二郡

陸奥白川 白川結城彈正少弼政朝

合田五千七百三十

餘町

下野都賀郡中沼莊上野邑樂郡青柳郷武藏埼玉淡路三原郡大野木小野木郷

大田本相説志 卷之廿三 三十五 伏蔵省

大日本... 卷之十三

合田三千七百五十町 中沼 中沼又四郎宗常

町

下野那須郡下之莊

合田二千五百五十町 下野 那須越後守資持

餘

下野芳賀河内二郡塩屋郡ノ内

合田三千九百町 下野 宇都宮右馬頭正綱

常陸筑波 眞壁二郡

合田六千四十町餘 常陸 小田 小田讚岐守知久

常陸茨城郡ノ内

合田二千七百七十町 常陸 水戸 常陸 大掾清幹

七町

常陸久慈那珂多賀茨城四郡

合田一萬三千九百町 常陸 佐竹 佐竹右京大夫義人

町

〔按〕以上九氏之ヲ關東八家ト日フ蓋シ結城白川
結城共ニ其領地居城等ヲ異ニスト雖モ本ト一
家トス所謂八大將
ハ八家ヲ謂フナリ

大日本... 卷之十三

上野郡

波郡

評定衆

那波刑部少輔宗俊

多郡

合田四百三十町

善上野

善民部少輔倫乘

陸奥檜葉標葉二郡下總匝瑳郡下野郡賀郡上野山田郡

合田五百八十町

八上山野

二階堂左衛門尉政行

伊豆田方郡相摸大住郡糟屋下總為飾郡

合田四百十町

賀伊豆

佐々木近江守信久

〔按〕那波氏等ノ外武藤宇都宮兩上杉ヲ加ヘテ評定衆ト爲ス評定衆ハ前代以來置ク所ナリ尊氏政ヲ京都ニ奏決スルニ當テ評定衆ヲ執權ノ上ニ列セシム是ニ由レハ其重職タルコト知ルヘシ

甲斐山梨 巨摩二郡

高家衆

武田刑部少輔信昌

合田六千町

信濃筑摩安曇 伊那三郡ノ内

信濃 深志

小笠原大膳大夫清宗

合田七千五百町

安房 四郡

安房 白濱

里見民部少輔義實

合田四千三百六十

二町

上總夷瀧望陀
二郡三十六郷

凡田六百町

上總
和谷

武田上總介信英

信濃佐久
郡大井庄

凡田六百町

信濃
小諸

大井越前守教光

信濃筑摩郡木曾谷伊那郡宮田郷松
島郷安曇郡大野田角平伊王等郷

凡田七百六十六町

信濃
野尻

木曾伊豫守義元

餘

上野大室七郷武
藏榛澤郡横瀬郷

凡田七百八十五町

上野
金山

横瀬信濃守國繁

三段三畝

陸奥伊達信夫
二郡長井莊

合田一萬千町

陸奥 在國在郷外様衆
伊達

伊達大膳大夫持宗

陸奥磐手二戸三戸
九戸北田名部六郡

合田一萬三千三百

陸奥大
南部

南部大膳大夫政盛

町

出羽秋田檢原二郡ノ内

合田六千七百町

出羽秋田

安東太郎盛季

陸奥田村郡

合田千五百町

陸奥三春

田村右京大夫持顯

信濃埴科更級佐久三郡ノ内

合田三千七百町

信濃桂尾

村上左京大夫滿清

出羽田川飽海二郡

合田六千三百町

出羽大梵字武藤出羽守成秀

上野邑樂郡佐貫庄

合田千二百町

上野青柳

佐貫左衛門佐照武

武藏幡羅郡埼玉郡ノ内

合田千六百七十七町

武藏成田

成田五郎左衛門尉資貞

上野山田郡ノ内

合田六百七十八町

上野桐生

桐生左衛門尉重綱

上野群馬碓
氷香妻三郡

合田五千餘町

上野
箕輪

長野右京亮業景

相摸足柄上下
大住三郡ノ内

合田九百餘町

相摸
田原小

大森隱岐守實頼

相摸足柄上下
大住三郡ノ内

合田三百四十三町

相摸
宮下

大森左衛門佐持康

相摸鎌倉高座大住三郡ノ内
都筑埼玉荏原三郡豊島郡ノ内

凡田五百八十町六

太田左衛門大夫尉持資

段二畝

常陸茨城新
治二郡ノ内

合田二千百五十町

常陸
江戸

江戸但馬守通勝

常陸茨城
郡ノ内

凡田三百餘町

常陸
江戸

江戸三郎通幹

相摸三浦鎌
倉筑井三郡

合田千三百八十四

相摸
新井 阪東八平氏

三浦相摸介時高

武藏荏原豐島
多摩三郡ノ内

合田六百三十町

武藏
馬籠

柘原美作守經景

上野群馬佐位二郡
ノ内武藏榛澤郡

合田六百三十八町

上野
總社

長尾尾張守忠景

越後頸城刈
羽二郡ノ内

合田二千五百餘町

越後
舟井

長尾信濃守能景

上野群馬勢
多二郡ノ内

合田千三百町

上野
白井

長尾左衛門尉景信

上野邑樂山田二郡
ノ内下野足利郡

合田九百廿町

上野
館林

長尾但馬守景文

武藏多摩荏
原二郡ノ内

合田六百七十五町

武藏
北見

江戸右京亮重廣

武藏多東新座
足立豐島四郡

合田二千三百餘町

武藏
神井

石
豐島勘解由左衛門尉泰經

大日本種姓志

卷之十三

四十一

才麻雀

下總相馬郡

凡田千六百廿町

下總相馬

相馬修理亮胤廣

陸奥會津大沼阿曾沼那麻四郡

凡田一萬三千三百

陸奥黒川

三浦葦名修理大夫盛高

三十三町三段餘

下總岡田郡

合田四百五十町

下總飯沼

海上備中守師胤

上野利根郡

合田七百二十町餘

上野沼田

沼田但馬守照則

下野梁田郡

合田五百九十町

下總關宿

梁田中務大輔成助

下總十二郡

合田三萬二千卅八

關宿城內二郭

梁田下野守孝助

町

上總伊隅山邊二郡

合田三百八十餘町

上總館北

伊北備中守滿胤

上野甘樂郡ノ内

合田千五百町

武藏七黨

上野國

小幡右衛門佐定高

上野群馬縣野二郡ノ内

合田四百三十八町

上野倉賀野

三河守行政

陸奥東日流六郡奥法馬郡江流末田舍平賀鼻和

合田一萬千二百町

陸奥行岳

北畠左衛門督俊具

餘

陸奥鹿沼縣井吐鹿三郡

合田三千六百七十

陸奥石卷

葛西刑部大輔親宗

九町

陸奥和賀郡多二郡

合田八百九十町

陸奥二子

和賀中務大輔義翁

陸奥石川田村磐瀬磐前四郡

合田三千四百餘町

陸奥石川

石川中務大輔成光

陸奥磐前白河二郡

合田千五百五十餘 陸奥須 二階堂遠江守盛重

町

上總望陀 郡ノ内

合田千二百五十餘 上總 村上左京大夫持清

町

上總武射山 邊長柄三郡

合田二千三百五十 上總 酒井越中守定隆

餘町

出羽雄勝平 鹿山本三郡

合田七千五百町 出羽 小野寺備前守政道

佐渡雜太郡長木賀茂郡長畝 和泉保石田郷金丸長池關浦

凡田四百八十四町 佐渡 本間内藏助泰直

松前 蝦夷

一圓 松前 蠣崎宮内少輔光廣 應仁武鑑

〔按北條氏ノ末葉國家多事所領ヲ有スル者ハ概
子其地貫高ノ多少ニ依テ兵馬ヲ出シ服役ニ給
ス例ナリ足利氏ノ時六貫文コトニ一騎ヲ出サ
シム此地千歩一貫文ナレハ一町六段二百四十

歩五段一貫文ナレハ三町トス忍ニ應ニ所在俸
カラサルヘシ且兵役ヲ貫高ニ賦スルコト武田
氏ハ三十貫文コトニ一騎ヲ出サシム其餘諸説
異同アリ復々此ニ費セス今貫高ヲ稱セテ
折算シテ町段歩ト爲スモハ則チ以テ各家所
領ノ廣狹食祿ノ多寡ヲ示スナリ且貫高町段歩
ノ數共ニ明瞭ナラサルモハ原書已ニ其兵賦
ヲ數ヘテ計算ス且坂東八平氏ト稱スルモノ十
五家蓋シ同宗分家トス武藏七郎ト稱スルモノ
唯二家ニ止ル而シテ北畠俊具以下ハ原書以テ
附載トナセリ今皆原
書ニ據テ之ヲ得録ス

〔永祿七年八月〕織田信長齋藤龍興ヲ降シテ美濃ヲ

領ス織田信長譜

〔十一年十一月〕信長畿内ヲ平定シ其地ヲ以テ諸士

ニ分チ授ク織田信長譜

〔正親町天皇天正三年四月〕信長廷臣水領ヲ賣テ貧苦

スト聞キ其價ヲ買者ニ授ケ廷臣ニ返サシム織田信長譜
〔諸家領地〕

伊勢大河内城 北畠中將信雄

伊賀ノ内 伊賀上野城 織田上野介信包

伊勢神戸城 織田三七信孝

播磨姫路城 羽柴筑前守秀吉

越前八郡

柴田修理亮勝家

上野 佐久小
信濃 縣兩郡

瀧川左近將監一益

三河遠江

德川左京大夫家康

近江 坂本木戸
田中三城
丹波 龜山城

明智十兵衛尉光秀

大和

筒井陽舜坊順慶

加賀能登
越前ノ内

前田又左衛門尉利家

越中
越前ノ内

佐々内藏助成政

丹後

長岡兵部大輔藤孝

攝津

池田紀伊守信輝

駿河
甲斐ノ内

穴山梅雪

信濃
木曾二郡
安曇四郡

木曾伊豫守義昌

信濃
更級高井水
内埴科四郡

森武藏守長一

信濃
岩村城

森蘭丸長定

播磨
三木城

中川瀬兵衛尉清秀

信濃
伊奈郡

毛利河内守

信濃
諏訪郡
甲斐ノ内

河尻肥後守

越前ノ内

金森五郎八長近

越前ノ内

原彦次郎

越前ノ内

不破彦三直光

越前敦賀城

武藤宗右衛門尉

丹波 桑田 井二郡

細川 昭元

攝津 芥川郡

高山右近將監重友

攝津川那邊郡

安部 二右衛門

信長記 織田 具紀 濟倫 譜

〔按〕織田氏ノ天下ヲ經營スル進取略其地ヲ以テ諸將ニ分與ス而シテ取與時ニ隨テ變シ固ヨリ以テ一定ス可ラス今諸書ニ散見スル者ヲ取テ之ヲ列叙ス姑ク以テ其概略ヲ示スノミ

〔十一年〕斯時東國ニ於テハ徳川家康北條氏政北國ニ

於テハ長尾景勝西國ニ於テハ毛利輝元皆秀吉ニ輔
 湊ス天下掌握ニ歸スト謂フヘシ是ニ於テ秀吉諸士
 ノ功勞ヲ賞シ其忠ノ深淺ニ依テ國郡ヲ分付ス己ニ
 所領ヲ有スルノ輩過半ハ地ヲ易テ別ニ領知ヲ與ヘ
 又舊ニ依テ之ヲ加増ス織田三介信雄ハ伊賀伊勢尾
 張三國ノ屋形ト爲シ長島城ニ居リ織田上野介信長
 ハ穴津城津川立蕃助ハ松島城岡田長門守ハ星崎城
 ナリ美濃ノ守護ハ池田紀伊守之助岐阜ハ池田勝九
 郎曾根ハ稻葉伊豫守金山ハ森勝藏近江日野ハ蒲生
 飛驒守氏郷瀨田ハ淺野彌兵衛尉長政坂本ハ杉原七
 郎左衛門家次比田ハ長谷川勝五郎秀一高島ハ加藤

佐久内光泰佐和山ハ羽柴左衛門督秀政越前一國加
賀半國ノ守護ハ惟住五郎左衛門尉長秀敦賀ハ蜂屋
伯耆守頼隆能登一國加賀半國ノ守護ハ前田又左衛
門尉利家越中ノ守護ハ佐々内藏介成政若狹佐柿ハ
木村隼人佐高濱ハ堀尾茂介吉晴丹後ノ守護ハ長岡
越中守忠興宮津城ニ居リ丹波ノ守護ハ羽柴御次九
秀勝龜山城ニ居リ播磨但馬ノ守護ハ羽柴美濃守秀
長姫路城ニ居リ東郡三水城ハ前野將右衛門尉長康
西郡龍野城ハ蜂須賀小六正勝廣瀬城ハ神子田半左
衛門尉正治出石ハ青木勘兵衛因幡ノ守護ハ宮部善
淨坊繼潤鳥取城ニ居リ鬼城ハ荒木平大夫鹿野ハ龜

井新十郎茲知伯耆國端ハ南條勘兵衛尉淡路洲本ハ
仙石權兵衛尉岩屋ハ間島兵衛尉備前美作ノ守護ハ
宇喜多秀家大和ハ筒井順慶和泉ハ中村孫平次攝津
ハ三好孫七郎秀次茨木ハ中川藤兵衛尉秀政山城檜
城ハ一柳市介直末ナリ豐臣太閤六箇條雜記

〔十八年諸家領地〕

武藏相摸伊豆上總
下總上野下野ノ内

古河

合高二百四十万二千石 本名徳川 江戸内大臣家康

安藝備後周防
長門出雲石見

本名毛利右馬頭

合高百二十万五千石

安藝中納言輝元

陸奥ノ内白川米津
二本松三春平福島
合高九十一万九千石

本名上杉彈正忠
會津中納言景勝

常陸ノ内水
戸笠間土浦
合高八十万石

本名佐竹
常陸侍從義宣

大隅薩摩日
向ノ内三郡
合高六十三万石

本名島津兵庫頭
薩摩少將義弘

陸奥ノ内
合高六十万九千百石

本名伊達陸奥守
大崎少將正宗

越後
合高五十五万石

本名堀久太郎
越後侍從秀政

備前美作
備中ノ内
合高四十七万四千石

本名字喜多八郎
備前中納言秀家

筑前
合高三十三万六千四百石

本名金吾
筑前中納言秀秋

加賀
金澤

合高二十三万石

本名前田又左衛門

加賀大納言利家

越中

合高三十三万石

本名前田肥前守

越中宰相利長

能登

合高二十一万五千石

本名前田孫四郎

能登侍從利政

出羽ノ内最上山形
庄内新城本城神山

本名最上

合高二十四万石

出羽侍從儀光

肥前ノ
内佐賀

合高三十一万石

鍋島加賀守

甲斐

合高二十一万七千石

淺野彈正少彌長政

尾張ノ
内清須

合高二十万石

福島左衛門大夫侍從正則

大和郡山

合高二十萬石

眞下左衛門尉長盛

肥後ノ内 熊本八代

合高十九萬五千石

後稱肥後守 加藤主計頭清正

近江佐和山

合高十九萬四千石

石田治部少輔三成

阿波

合高十七萬三千石

蜂須賀阿波守家政

三河吉田

合高十五萬二千石

本名池田三左衛門 吉田侍從輝政

肥後字土

合高十四萬六千三百石

小西攝津守行長

駿河

合高十四萬五千石

中村式部少輔一氏

筑後柳川

本名立花左近將監

大和郡山 合高二十萬石 眞下左衛門尉長盛

合高十三万二千二百石

柳川侍從宗義

美濃
岐阜

本名織田

合高十三万石

岐阜中納言秀信

加賀
小松

本名丹羽五郎左衛門

合高十三万石

松洞宰相長重

豐前
中津

合高十三万石

黑田甲斐守長政

道江
濱松

合高十一万二千石

堀尾帶刀吉晴

丹後
一國

合高十一万石

本名細川越中守

丹後少將

陸奥
南部

合高十一万石

南部大膳大夫

合高十一万石

本名長谷川藤五郎

北江侍從秀一

下總
結城

合高十万千石

結城宰相秀康

三河
岡崎

合高十万千石

田中兵部少輔吉政

土佐

合高九万八千石

本名長曾我部宮内少輔
土佐侍從元親

越前
福井

信濃
伊奈

合高八万石

青木紀伊守

因幡
鳥取

合高八万石

本名京極修理
伊奈侍從高康

信濃
中島

合高七万石

本名善祥坊
官部法印

金山侍從忠政

合高七万石

藤堂佐渡守

伊豫大洲

合高七万石

小川左馬介

讚岐高松

合高六万千石

生駒雅樂頭近世

豐後岡

合高六万六千石

中川修理進秀重

若狹

合高六万二千石

本名木下

若狹侍從

下野那須

合高六万五千五百石

那須白佐

壹岐肥前平戶

合高六万石

松浦民部少輔

近江大津

合高六万石

本名京極丹後守

大津宰相高慶

伊豫
通崎

合高六万二千石

加藤左馬介

豐前
小倉

合高六万石

毛利壹岐守

信濃
松本

合高五万八千石

石川玄蕃頭康長

信濃
小諸

合高

合高五万七千石

仙石越前守秀久

和泉
和田

合高五万三千石

小出大和守吉政

遠江
掛川

合高五万千石

山内對馬守

越前
敦賀

合高五万石

大谷刑部少輔吉隆

伊賀 上野

本名筒井

柴伊賀守

丹波 龜山

前田德善院玄以法印

伊勢安 野津

富田左近將監

近江 水口

長束大藏大輔

合高五万石

合高五万石

出羽 秋田

秋田藤三郎

合高五万石

日向ノ 内宮崎

高橋九郎

合高五万石

安房

本名里見

安房侍從

合高四万五千石

越前 大野

合高四萬五千石

大野宰相長秀

美濃郡上

合高四萬石

郡上侍從直房

合高四萬石

加藤作十郎直春

肥前島原

合高四萬石

有馬修理大夫

飛騨

合高四萬石

有馬修理大夫

合高三萬三千石

金森法印

肥前

合高三萬三千石

寺澤志摩守

丹波福地山

合高三萬石

小野木縫殿

美濃松木

合高三萬石

德永法印

伊勢 合高三万石 原 隱岐守

淡路 次木 合高三万石 脇阪中務少輔

合高三万石 小出播磨守

出羽 内 合高三万石 小野木孫七郎

信濃 上田 合高三万九千石 佐野修理大夫

合高三万八千石 眞田安房守

合高二万七千石 眞田源三郎

遠江 横須賀 合高三万五千石 有馬玄蕃

出羽 内

合高四方石

戶澤九郎光盛

筑後久留米

本名小早川藤四郎

合高三万五千石

久留米侍從

志摩島羽

合高三万五千石

九鬼大隅守

合高三万三千石

吉田兵部少輔

陸奥津輕

合高三万四千石

津輕右京大夫

合高三万四千石

木下肥後守

美濃大柿

合高三万四千石

伊東長門守

日向、
内里原

合高二万八千六百五十石

島津又七郎

合高二万八千石

日根織部正

紀伊
新宮

合高二万七千石

堀内安房守

伊勢
岩手

合高二万五千石

稻葉藏人

合高二万五千石

羽柴美作守

合高二万二千石

齋村左兵衛

伊勢
内

合高二万二千石

岡本下野守

伊勢
桑名

合高二万二千石

氏家内膳正

肥前
大村

合高二万石

大村新八郎

合高二万二石

土方勘兵衛

合高二万石

多賀山雲守

攝津
三田

合高二万石

山崎左馬介

伊勢
神戶

合高二万石

羽柴下總守

三河
刈屋

合高二万石

水野和泉守

攝磨
姫路

合高二万石

木下周防守

豐後
日出

合高二万石

木下右衛門大夫

合高二万石

木下宮内少輔

豐後
府内

合高二万石

福原右馬介

合高二万石 西尾 照後守

紀伊 田邊 合高一万九千石 杉若越後守

合高一万八千石 高橋主膳正

肥後 河良 合高一万八千石 相良宮内少輔

豊後 内

合高一万八千石 筑紫上野

合高一万七千石 横濱民部少輔

紀伊和歌山 合高一万六千石 桑山法印

本名伊賀守

大和 内 合高一万六千石 桑山修理進

丹波 内

合高一万六千石 谷 出羽守

豐後 白杵 合高一万六千石 太田 飛驒守

肥前 合高一万六千石 五島 孫右衛門

日向 合高一万四千三百石 後改修理 伊東 民部

合高一万四千石 村上 出雲守

合高一万四千石 木村 伊勢守

合高一万三千石 戸田 下野守

豐後 高田 合高一万八千石 竹中 源介

因幡 合高一万三千石 龜井 豊前守

合高一万三千石 津田長門守

合高一万三千石 美濃郡上衆 遠藤

合高一万二千石 松下右兵衛

合高一万二千石 新莊越前守

合高一万二千石 稻葉兵庫頭

尾張 犬山	合高一万二千石	石川備前守
	合高一万二千石	糟屋内膳正
	合高一万二千石	池田孫三郎
近江 ノ内	合高一万二千石	別所豊後守

合高一万五千石 石田木工頭

合高一万五千石 石川肥後守

合高一万五千石 寺田播磨守

合高一万五千石 氏家志摩守

合高一万五千石 攝津 片桐市正

合高一万石 大野修理進

合高一万石 對馬侍從

合高一万石 伊勢長島 福嶋掃部頭

合高一万石 山崎右京

合高一万石 池田備中守

池田河内守
池田河内守
池田河内守
池田河内守
池田河内守
池田河内守
池田河内守
池田河内守
池田河内守
池田河内守

合高一万石

池田河内守

合高一万石

戸田豊後守

合高一万石

寺西備中守

合高一万石

寺西下野守

合高一万石

増尾隠岐守

合高一万石

岸田伯耆守

播磨

合高一万石

赤松上總介

合高一万石

長谷川右兵衛

合高一万石

松濤伊豫守

合高一万石

草川主水

合高一万石

伊藤丹後守

大田原守
大田原守
大田原守
大田原守
大田原守
大田原守
大田原守
大田原守
大田原守
大田原守

合高一万石

堀田圖書助

合高一万石

青木民部少輔

合高一万石

織田三十郎

日向
ノ内

合高一万石

秋月三郎

合高一万石

蒔田權之助

合高一万石

有馬法印

合高一万石

伽部

越後新
發田

合高四万石

溝口伯耆守

合高一万石

奥山雅樂頭

攝津
高槻

下田本種統志

卷之十三

六十七

大藏省

合高一万石 河尻肥前守

下野字 都宮 合高十八万石 蒲生飛騨守

元陸奥 中村 相馬彈正少弼盛胤

對馬 宗對馬守義智

天正年中大名帳

〔按〕豐臣氏海内ヲ統轄スルニ當テ舊族名家及ヒ新進有功ノ者ハ皆封土ヲ制キ與ヘテ國家ノ藩屏ト爲ス其營族名家ハ二三州若クハ六七州ヲ跨有スルモ有リ小ナハ二三州若クハ六七州而シテ相馬宗二氏原書提額ヲ舉ケシ止ル關如ス從前ノ貫高ヲ改テ石高ト爲シ高ト爲シテ爲シテ領地ノ石高亦因テ此制ヲ立ツ蓋

大日本租稅志卷之十三終

正誤

第十二卷

第九張右第三行

〔朔月〕〔朔日〕ノ誤

第十三卷

第四十一張左第四行

〔那〕〔耶〕ノ誤

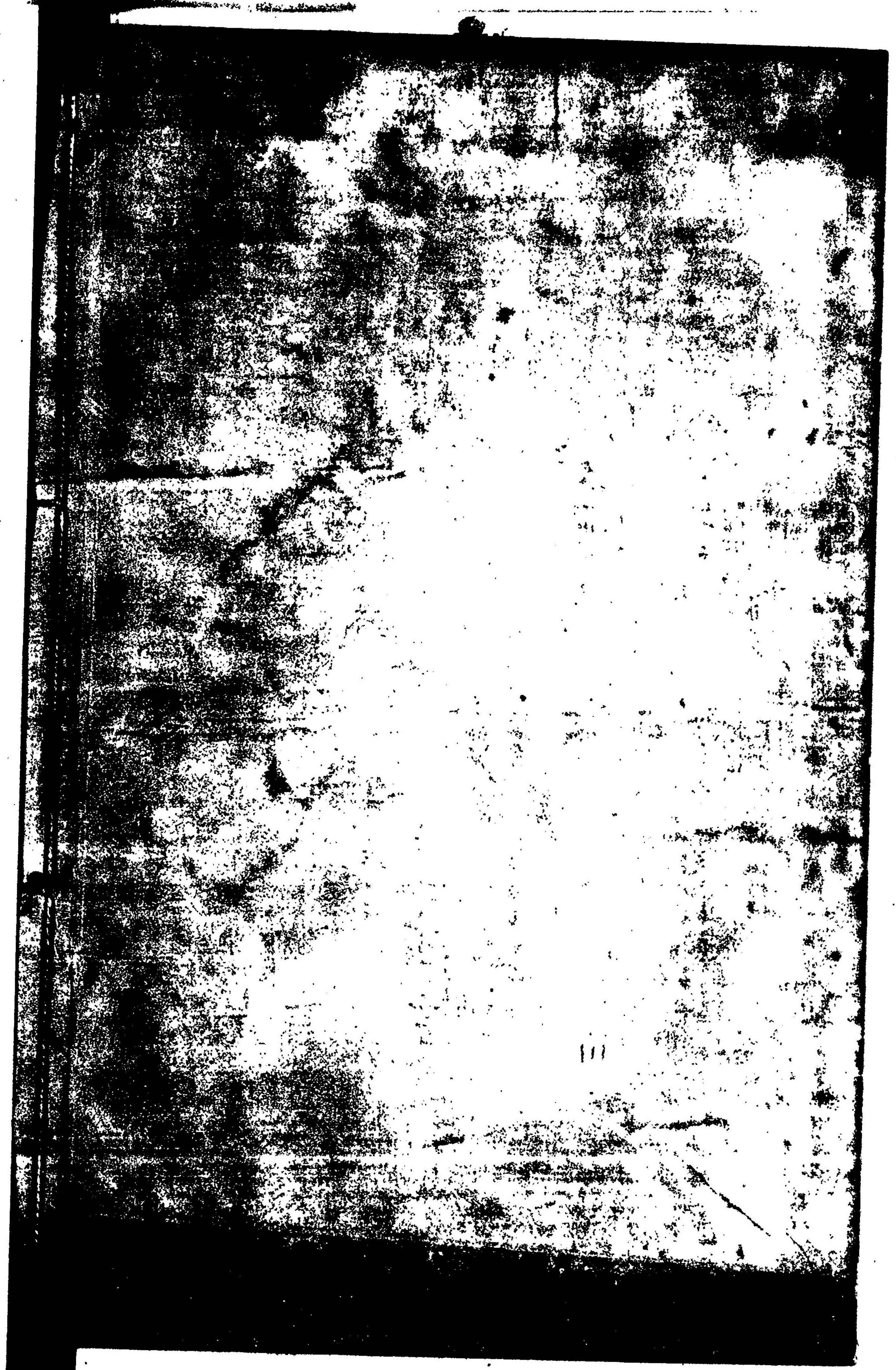
第五十二張左第一行

〔義〕〔茂〕ノ誤

大日本私権

正

大日本私権



特56

119

本
和
志

七

第
四
千
三
百
五
十
號